

# 暴行無罪の男性 国賠提訴へ

## 大阪「検察が目撃者口止め」

暴行事件の目撃者が捜査

段階のうその証言を撤回しようとしたところ、検察官が口止めしたため、拘束期間が長引いたなどとして、無罪が確定した男性(66)＝大阪市Ⅱが3日、国と大阪府に計1584万円の国家賠償を求め、大阪地裁に提訴する。「違法・不当な行為で重大な心身の苦痛を受

けた」と訴えている。

訴訟記録などによると、男性は2012年8月、大阪府岸和田市の病院前で男性患者(62)を殴ったとして傷害容疑で逮捕された。男性は否認したが、大阪地検岸和田支部は患者と一緒に居た知人2人が「男性が患者を殴った」と証言したことを踏まえ、翌月に暴行罪

で起訴した。

ところが、このうちの1人(40)が公判で「やってもいない罪に陥れた。3人で賠償金を取るうと口裏を合わせた」と証言し、「患者が挑発して男性を殴った」と起訴内容を否定。「検察官にも同じ内容のことを告白している」と説明した。

渡した。検察側は控訴せず、判決は確定した。

国賠訴訟で代理人の染川智子弁護士は「目撃者が告白した際、検察官は『(男性の)弁護士に言わないように』と口止めした」と主張。検察官は暴行事件の公判で

「目撃者には幻覚症状があり、取り調べでは支離滅裂だった」と述べて証人尋問を見送り、結局、約3カ月延期させたと批判している。

また、事件当時、「患者が男性を追いかけているように見えた」という別の目撃証言があったにもかかわらず、大阪府警の捜査員は「2人に何かがあったことしか知りません」と捜査報告書に記載したと指摘。男性に有利な情報を残さなかったとし、「416日間にわたる拘束で、甚大な損害を被った」と訴えている。

(阿部峻介)

### うその証言撤回の目撃者

#### 「検察、有罪押し通そうと」

目撃者は朝日新聞の取材に応じ、「検察官は起訴した以上、有罪になるように押し通そうとしていると感じた」と話した。

目撃者が検察官に告白した

のは証人尋問を翌月に控えた13年1月。「裁判にまでなるとは思わなかった。良心の呵責があった」と振り返り、打ち明けられた検

「どっしりうかな」と繰り返していたという。

また、検察官に「幻覚症状がある」と言われたことについては「びっくりした。心外だ」と憤った。

染川弁護士が目撃者の主治医に照会したところ、

「当時、幻覚症状や支離滅裂な言動は認められなかった」と回答があったという。

検察は「それはまあいい